

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

<h3>なぎなた・柔道</h3> <p>なぎなたの礼法や足さばきを学ぶことで、柔道との共通点を気付かせる授業の展開</p>	<p>枕崎市立 別府中学校（鹿児島県）</p> <p>電話番号 0993 (76) 2012</p> <p>メールアドレス beppu-jhs@po12.synapse.ne.jp</p>
---	--

●実践研究のねらい

- なぎなたから柔道へとつながる複数種目の武道指導を計画し、礼法や足さばきなどの基本動作は共通点に気付かせながら、技の指導では、構えや打ち込みの仕方を身に付けることをめざす。
- 外部指導者の活用について、効果的な教師との役割分担を模索することや限られた単元計画内における外部指導者からの指導内容を精選すること、安全を確保した指導体制を確立することをめざす。

●複数種目指導モデル 第1・2学年（2学級35名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
種目		なぎなた				柔道						
学習の流れ	オリエンテーション（なぎなた・柔道）	導入（あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の学習の見通し）										
		準備運動										
		基本動作の学習	学習のまとめ	基本動作の学習	受け身の練習						学習のまとめ	
		対人的技能の学習		受け身の学習	固め技の学習	投げ技の学習						
整理（整理運動、本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ）												

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 指導内容の精選
限られた時間内で生徒が達成感を味わうことができるよう、指導内容の精選を図る。
- 生徒の視覚的な理解を促す資料の充実
映像や掲示物などの資料を充実するとともに、資料を活用した協働的な学習場面を設ける。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 安全な運動の行い方の理解
オリエンテーションや授業はじめに、外部指導者より安全な運動の仕方について説明を受ける場を設ける。また、用具の使い方や生徒の距離間は気をつける。

●授業の様子



【オリエンテーション】

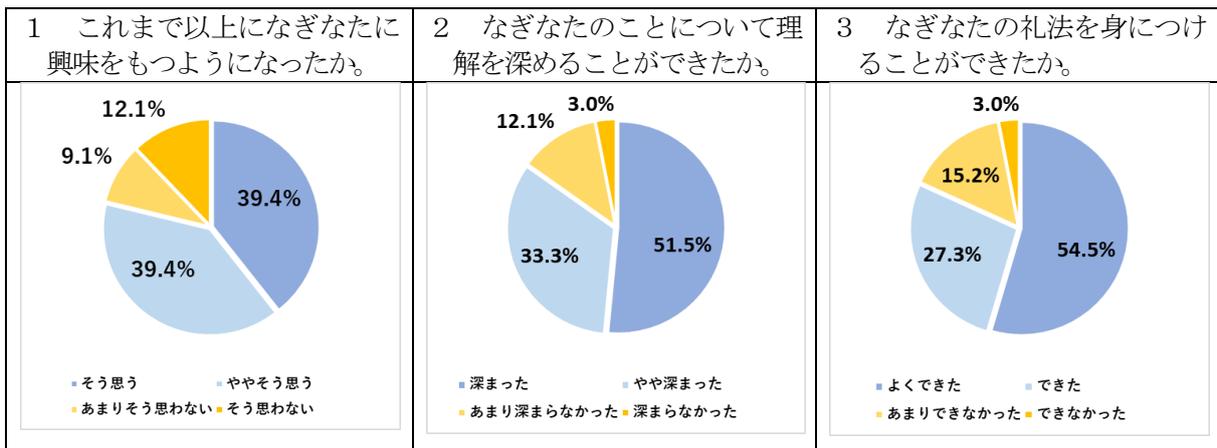
なぎなた・柔道の特性や成り立ち、礼法、安全面の配慮点などについて、外部指導者から指導することにより、武道への関心を高められるようにした。



【対人的技能の学習】

対人的技能の学習では、面打ち、脛うちの二つとし、繰り返し行うことで、技能の習得をめざした。

●生徒の意識、感想、変容など



●成果と課題

- なぎなたから柔道につなげた学習は、「礼法」や「足さばき」などに共通する点を見出すことができ、なぎなたに興味をもつ生徒が多くいた。指導後のアンケート結果から、なぎなたについて理解を深められた生徒が半数以上おり、充実した武道の単元となった。
- 柔道は今までも行ってきており、礼法においては共通点が多くあるため、理解が早い生徒が多く見られた。
- なぎなたの指導においては、外部指導者の存在は大変重要である。専門性が高く、授業で教員は生徒の安全管理に終始してしまう状況もあったため、教員研修を進めることと外部指導者との役割分担や連携を明確にした指導計画について、引き続き検討していく必要がある。
- これまでの武道12時間の指導計画のなかでなぎなたと柔道を入れた単元計画としたが、なぎなたは、あと1時間程度増加できると学習がより深まると考える。そのためには、武道全体の指導計画を工夫する必要がある。